

第2回バイオリソースセンター情報検討委員会議事要旨

1. 日 時 平成15年11月27日(木) 13:00~15:00
2. 場 所 KKRホテル東京 11階 桜の間
3. 出席者
(委員等)
山崎 由紀子 委員長、菊池 俊一、中村 保一、松本 耕三、宮下 信泉各委員
文部科学省 鈴木 一郎 調査員
(理研側)
森脇センター長、小幡リソース基盤開発部長、深海情報解析技術室長、岩瀬研究員、
太田研究員、増田推進部長、根本企画課長代理、他
4. 議 題
 - (1) 前回議事の確認
 - (2) 情報解析技術室の事業実績の概要説明
 - (3) 情報解析技術室の事業の今後の方針について
5. 主な内容
 - (1) 前回議事の確認
 - ①第1回議事録の配布と議事要旨を各委員に配布し、内容について確認を行ったが、特に委員からの修正、指摘等はなかった。
 - (2) 情報解析技術室の事業実績の概要説明
 - ①バイオリソースの諸外国の情勢は、欧米におけるバイオリソースの囲い込み等、この数年非常に厳しいものがあり、途上国においてもプロフィット・シェアリングの要求、その端的な例が多様性条約などというところに現れており、OECD(経済協力開発機構)でもバイオリソースの重要性というものが認識されつつある。OECDではグローバル・バイオリソースセンター・ネットワークというものを構築しようとする方向で作業が進められている。我が国としてどう対応するかが今後の重要課題となっている。
 - ②情報解析技術室は平成14年度からナショナルバイオリソース・プロジェクトという枠組みの中で他の開発室とともに当室も中核機関として選定され、事業を進めている。収集・保存・提供事業のリソース関連情報の支援を行っている。
 - (3) 情報解析技術室の事業の今後の方針について
 - ①理研BRCの存在を第一段階として認知させる広報活動が重要であり、その次の段階としてどのようなリソースがあるかを知らせる広報活動が重要。
 - ②特に専門家も満足でき、素人にも判りやすいホームページ作りが重要であり、一つのバンクで完結することなく横断的に情報のリンクを張ることが重要。
 - ③日本人由来のリソースの基幹構築とあるのだが、これはネガティブな問題であっ

て、世界共通の外国のデータ、DNAデータとか最低限の共通項的データを蓄積したうえで日本人由来のリソースデータを集めるべきでは。

- ④ 研修事業で、理研 BRC は既に過去に実績があり宿泊施設等の下地が整っている。従って研修を受ける研究者の費用負担が少なく押さえることが可能だ。
- ⑤ 一機関で全てのリソースを保有することは不可能であり、利用者にとっては、所在情報が極めて重要、日本人にとっては日本語で検索できることが望ましい。
- ⑥ 海外のバンク機関のホームページのような見やすく使いやすいホームページの構造とすることが重要。米国等ではデザイナー、ソフト作製者など横断的で適切な連携をとりながらホームページを作製している。
- ⑦ 遺伝子関連リソース情報に関しては、リソース情報としての塩基配列から、作られるタンパク質、さらには関連する疾患名までの情報が得られることが理想である。
- ⑧ 国立大学は独法化を見据え、機構改革の一環として情報系のセンター化という機能強化を図っている。これを踏まえて、データベースの利用、ネットワークの強化、バイオインフォマティクスまで理解できるスタッフを大学に置くという傾向が顕著に見られ、大学の方でも情報の受け皿が整いつつある。
- ⑨ ゲノム関連の情報だが、内部ソースでタンパク質レベルまでデータベースを深めることにより、オーダーメイド医療、テーラーメイド医療にも波及効果が生まれ医学部サイドからの利用価値も高まるものと思われる。
- ⑩ 理研 BRC におけるリソースの取扱いと其中での情報のウェイトという観点から、リソースに属する直接情報と例えばDNAでシーケンスまで見たときに、アプリケーション、シミュレーション等予測手法みたいなものを取り入れてはどうか。
- ⑪ 理研 BRC における現状において、プログラミングのマンパワーが不足しているので外注あるいは何らかの対応が必要。NIH、RGBのデータベースは非常に良く出来ている。
- ⑫ 理研 BRC が価値あるリソースを保有しているとしても、その関連情報をいかに質の高い情報発信することができるかが極めて重要であり、その関連ソフトの開発はバンクの知名度にも繋がる。

以 上